

食品ロス 福祉へ活用

「フードバンクさが」設立総会



「フードバンクさが」の設立に際し、来場者にあいさつする千瀧代表＝佐賀市エコプラザ

子ども食堂提供推進へ

佐賀市 まだ食べられるのに捨てられる「食品ロス」を減らし、有効活用する団体「フードバンクさが」が21日、佐賀市エコプラザで設立総会を開いた。食品企業の過剰在庫や包装破損などで流通できない食品を、子ども食堂など必要な団体に無償提供し、地域づくりの活動を支援していくことを誓った。

総会には関係者約50人が出席。設立呼び掛け人代表の千瀧由美子さんが「食の大切さを見つめなおし、食を通じて人々をつなぐことで助け合いの地域福祉を応援していきたい」と述べ、会則や予算、千瀧さんを団体代表とする役員選任など4議案を承認した。

総会に先立ち、各地のフードバンクや子ども食堂に食品を提供し、廃棄減につなげているスーパー「ハロース」(岡山県)で食品管理を担当する太田光一さんが講演した。

太田さんは「日本の食品ロスは年間646万ト。国民1人当たり、毎日おにぎり一つを捨てていることになる」と指摘。商業施設での売れ残りや工場での過剰生産を原因に挙げ「食品を必要としている子どもはたくさんいるし、提供側も食

品廃棄費用の削減につながる。佐賀でも地域で協力する態勢を整えてほしい」と語った。

また、太田さんは「さまざまな企業や団体が協力し合い、特定の食品に偏らず、多くの種類を提供していくことが大切」と指摘した。

(井上耕太郎)



太田さんの話に耳を傾ける来場者＝佐賀市エコプラザ

25人訪韓交流に意欲

子ども会連「少年の翼」結団式



代表して決意を述べる峯明快君＝佐賀市のほほえみ館

韓国の子で流で国際的な次世代を担う成しようとする。釜山の小学生との交流などを通して生活習慣も体験し、結団式で、丸正信子連流、ホームス深め、肌で感

拉致問題映画上映に注力

「救う会佐賀」が来年度方針

佐賀市

北朝鮮による拉致被害者の支援活動方針を確認した。「救う会佐賀」(大原慶会長)が21日、佐賀市で総会を開いた。県立高校や講演会の開催に取り組んでの拉致問題を扱う映画上でいる。2019年度は、

支援センター健康のフェス、江の同セ、た。親子連れ集まり、ぬかやマルシェ、

佐賀市

西九

ぬか床健康講

18歳選挙を香致問題に對すよつと、映画き裂かれた家県立高校でのを入れる。題の啓発や解ルリボンの



2019年度の運動方針を確認した「救う会佐賀」の総会＝佐賀市の佐賀市文化会館